

報道機関各位

熊本大学

第37回熊本大学附属図書館貴重資料展（11月3日～5日）

「悲劇の藩主 細川光尚」

熊本大学附属図書館では、永青文庫研究センターとの共催で「第37回熊本大学附属図書館貴重資料展」を開催します。2年ぶりの開催となる今年の貴重資料展は「悲劇の藩主 細川光尚」をテーマとし、天草・島原のキリシタン一揆をはじめ、17世紀最大の危機の時代の諸課題へ正面から取り組んだ細川光尚に焦点をあて、その駆け抜けた生涯での活動を示す数々の貴重資料を、光尚の指南役だったあの沢庵（たくあん）和尚の自筆書状や、宮本武蔵に関する新発見資料とともに公開します。初日（11月3日（木・祝））は、テーマに関連した公開講演会/第16回永青文庫セミナーも開催しますので、広く一般の方へお知らせいただくとともに、当日の取材をよろしくお願いいたします。

記

<貴重資料展>

【テーマ】「悲劇の藩主 細川光尚」

【期間】令和4年11月3日（木・祝）～11月5日（土） 10:00-17:00

<3日間限定>

<同時開催：公開講演会/第16回永青文庫セミナー>

【演題】「細川光尚とその時代——天草島原一揆・寛永大飢饉・御国返上——」

【講師】稲葉 継陽（熊本大学永青文庫研究センター長 教授）

【日時】令和4年11月3日（木・祝）14:00～15:30

【定員】先着90名<予約不要>

* 定員に達した場合は、聴講をお断りする場合があります。

* 公開講演会/第16回永青文庫セミナーは、後日、附属図書館ウェブサイトへ動画を掲載予定です。

-----以下、貴重資料展・講演会/セミナー共通-----

【会場】熊本大学附属図書館 中央館1階（熊本市中央区黒髪2丁目40番1号）

【対象】一般市民（興味があるかたはどなたでも）

【参加費】無料 事前申込の必要はありません。

※詳しくは別紙チラシまたはホームページをご覧ください。

<https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/5278>



* 新型コロナウイルス感染予防対策を講じて実施します。

また、新型コロナウイルス感染状況によっては、実施期間の延期及び附属図書館ウェブサイトへ公開講演会／第16回永青文庫セミナー動画掲載のみ実施へ変更となります。変更の場合は、附属図書館ホームページにてお知らせします。

【問い合わせ先】

熊本大学附属図書館 担当：時松

TEL：096-342-2212

第37回 熊本大学附属図書館貴重資料展

悲劇の藩主 細川光尚

期間 令和4年11月3日(木)～5日(土) 10時～17時

会場 熊本大学附属図書館 1階

古文書閲覧室・ラーニングコモンズ

同時開催

公開講演会・第16回永青文庫セミナー

演題

細川光尚とその時代

―天草島原一揆・寛永大飢饉・御国返上―

講師 稲葉 継陽 (熊本大学永青文庫研究センター長 教授)

日時 令和4年11月3日(木) 14時～15時30分

会場 熊本大学附属図書館 1階 ラーニングコモンズ

※ 聴講無料(定員90名) 当日先着順

(定員に達した際には、聴講をお断りする場合があります)

入場・聴講 無料

17世紀最大の危機に挑む

光尚・その生涯を映し出す



新型コロナウイルス感染予防対策を講じて実施します。

新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、実施期間の延期及び附属図書館ホームページ・特設サイトへ公開講演会/第16回永青文庫セミナー動画掲載による実施へ変更となります。変更の場合、附属図書館ホームページにてお知らせします。

共催 熊本大学附属図書館・熊本大学永青文庫研究センター

協力 公益財団法人永青文庫

後援 熊本県教育委員会・熊本市教育委員会・熊本日日新聞社・NHK 熊本放送局・RKK・TKU・KKT・KAB

フェスタ
国立大学2022



悲劇の藩主 細川光尚

元和5年(1619)、明君・細川忠利の嫡男に生まれ、藩主になることを約束されて江戸で育った光尚は、寛永14年(1637)、天草・島原のキリシタン一揆を討つため、初めて肥後に下る。一揆への対応、父の急死、寛永大飢饉への対処、ポルトガル船来航に対応するための天草在番や長崎出兵、熊本藩の財政破綻と百姓経営の危機。持病の痔ろうを抱えながら、17世紀最大の危機の時代の諸課題に正面から取り組むも、慶安2年(1649)、わずか31歳で失意のうちに病にたおれる。

本展は、いままであまり注目されることのなかった光尚の活動を示す数々の貴重資料を、光尚の指南役だったあの沢庵(たくあん)和尚の自筆書状や、宮本武蔵に関する新発見資料とともに公開します。

光尚らによる原城攻めの様相



「肥前国有馬城之絵図」

(熊本大学所蔵松井家文書 国費により修復)

落城・破却前の原城の様相を明瞭に描き、細川光尚の陣所も含め、城攻めに加わったすべての大名家及び上使衆らの陣を色分けして克明に書き込んだ絵図。松井興長ら家老衆が統括する細川家の論功の場で基本的な状況を確認するために作成された、ほとんどリアルタイムの史料だと考えられる。軍勢配置と仕寄(城攻め)場の状況を極めて具体的に描いている点に特徴があり、その多くが細川家や松井家に伝来した文献史料の内容と合致する。なお白杉藩稲葉家などには本史料の写しとみられる絵図が伝来しており、諸家に流布した原城攻めの絵図の原図の一つとしても価値が高い。

宮本武蔵に関する新史料！



「松井興長書状控」

(寛永19年[1642]閏9月27日)

(熊本大学所蔵松井家文書 国費により修復)

細川家老松井興長の大坂留守居宛て書状で、このほど熊本大学で発見された宮本武蔵に関する新史料4点のうちの一つ。細川三斎とも懇意だった茶人桑山宗仙の孫・作右衛門は、細川家に寄寓していたが、彼は熊本から山鹿へ湯治に赴くに際して、隣に住んでいた宮本武蔵に長持と鎧櫃を預かってくれるよう頼んだ。武蔵は作右衛門自身が長持・鎧櫃に封をすることを条件に、これらを預かった。しかし作右衛門がそのまま出奔したので、武蔵のもとにあった荷物は、松井らの扱いで大和の桑山家に送るよう手配する、と記している。桑山氏は尾張の秀吉直臣出身で、その出自と茶人としての由緒をもって、武蔵同様、細川忠利・光尚期の御伽衆に加わっていたとみられる。細川家御伽衆における宮本武蔵晩年の存在感を照らし出す書状である。

松井家文書とは

松井家文書は、松井明之氏(八代市)旧蔵の近世史料および典籍類で、昭和30年代に熊本大学附属図書館へ移管された。松井家は細川家第一家老の家柄で、日本の近世史研究を進展させる新たな発見が相次ぎ、注目を集める資料群である。

アクセス



熊本大学附属図書館 〈中央館〉



◎熊本桜町バスターミナル

(旧称:熊本交通センター)から(16番のりば)

- 産交バス:
楠団地、光の森産交行等(子飼橋経由)
- 熊本電鉄バス:
光の森駅行
「熊本大学前」下車 徒歩3分



※なるべく公共の交通機関をご利用ください。



熊本大学附属図書館公認キャラクター「くまぼん」

附属図書館支援事業 ~熊本大学基金へのご寄附のお願い~

皆様からの寄附を、図書館を通じての学生サービスや社会貢献を十全かつ迅速に行うための事業に活用させていただきます。
みなさまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【熊本大学基金】附属図書館支援事業 <https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/about/donation>



問い合わせ

熊本大学附属図書館

〒860-8555 熊本中央区黒髪2丁目40-1
096-342-2212

<https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/>